

『地域に目を向け、地域の声を聴く』

◇先日、校区内の公民館運営委員会に出席した時のことです。今年度の公民館に係わる事業の振り返りと来年度の活動計画についての説明、公民館長さんの願いも合わせて語られました。その中に、北中学校からボランティア参加した生徒の活躍へのお礼と来年度への期待の言葉も語られました。地域の中で、さらに、地区の垣根を超えた生徒たちも加わって活躍する姿を見たり、こうして頑張った姿をお聞きしたりするのは嬉しい限りです。

その後、参加者全員が感想や意見を話す時間が設けられました。私は、「地域からのボランティア依頼」について、その場での対話やお褒めの言葉、その後のコメントが生徒たちの充実感や満足感につながることに、早めの時期に実施日とボランティアの活動内容等を教えていただくことが、生徒たちの予定を立てること、柔軟に対応することにつながる、という内容を話しました。

そして参加者が順に話をされる中、アカデミー(寿大学)の運営副委員長さんの話の内容が実に切実で、誰もが考えなくてはいけない大きな課題だと思ったのです。概略が以下の通りです。

「コミュニティセンターまでの距離が遠い人は、寿大学の催し物、行事への参加者も極めて少ない。家族や親類が近くにいる人は、移動手段が確保できるが、高齢者だけで生活している人は手段がない。だから、行きたくても、参加したくてもできない人が存在する。これからのことを言えば、東濃厚生病院に代わる新病院には、なかなか行けない高齢者が出てくる。タクシーを使えば多くの費用が掛かる。かといって足がない。こういった問題を何とかしないと町の維持につながる。」といった内容でした。この話を読んでどう思いますか？

二年生は先日、瑞浪高等学校の実践活動発表会に出向き、高校生の「地域と生徒が結びつく、地域連携プロジェクト」の発表を聞きました。その発表を見聞きし、発表の仕方の素晴らしさとともに、地域に向いて、地域をよりよくするための手立てを実践に移した高校生の行動力の高さに感心しました。

高校生のよう現地向き、地域のパートナーとともに、地域をよりよくしようとする案を考え、実際に行動に移すことはなかなかできません。それでは、中学生としてできることは何でしょうか？

様々な地区出身の高校生との一番の違いは、中学生はその地区で毎日生活していることです。地域の声、家族の声を聴き、地域を見渡し、地域のためにできることを考える、その中からできることを実行していくこと、それがとても大切だと思います。ボランティアへの積極的参加もその一つと言えます。